

経営比較分析表（平成30年度決算）

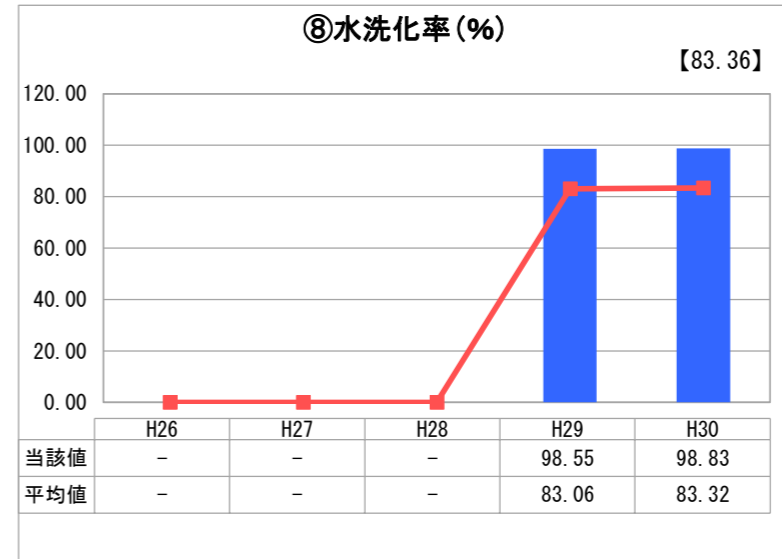
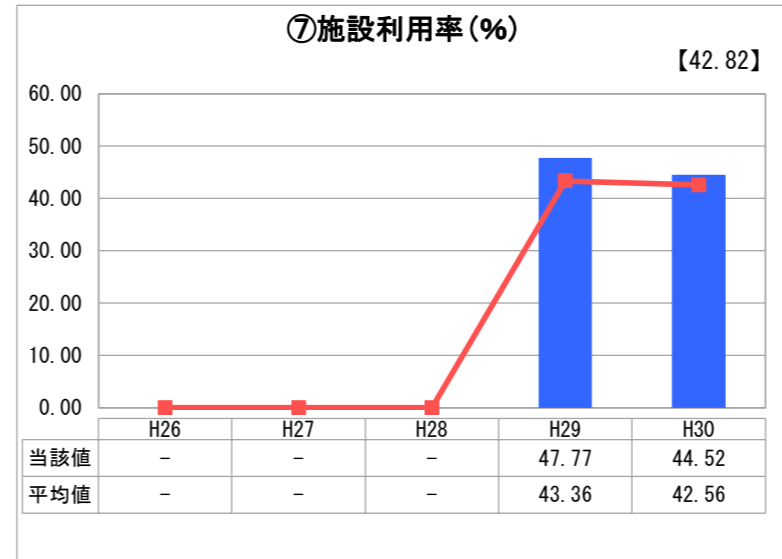
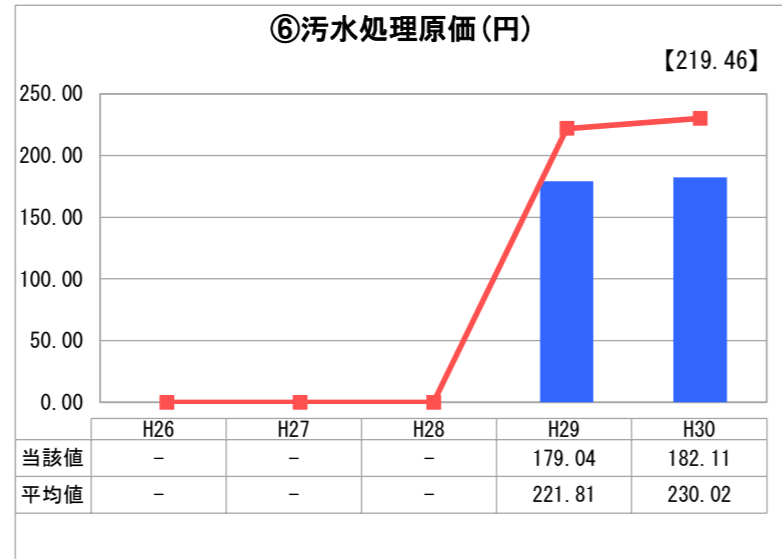
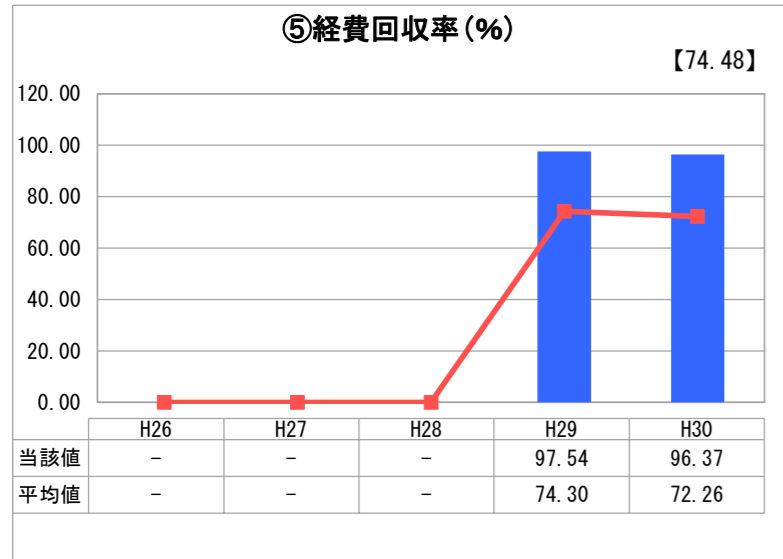
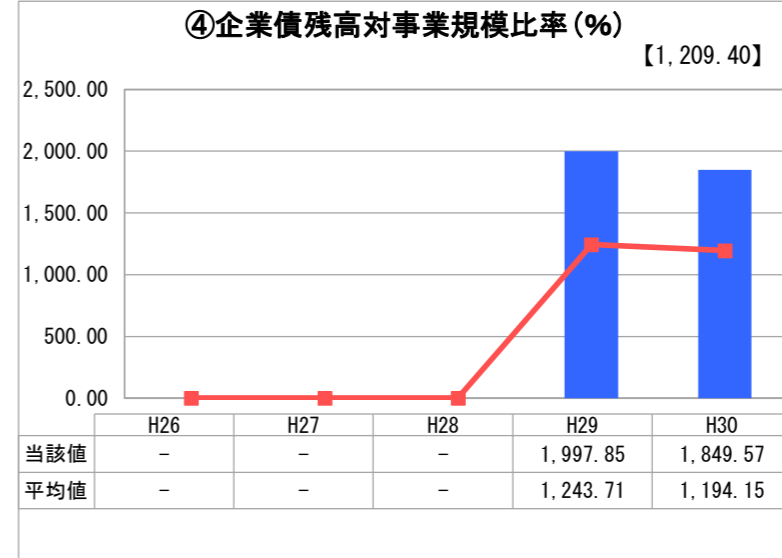
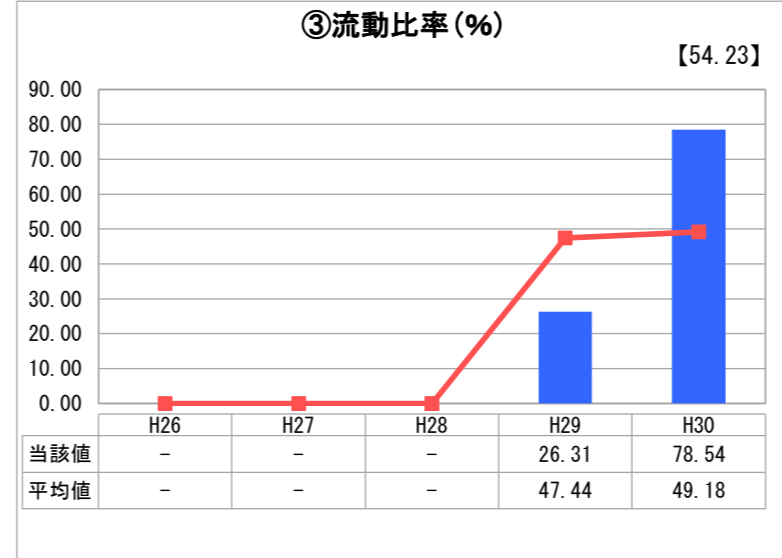
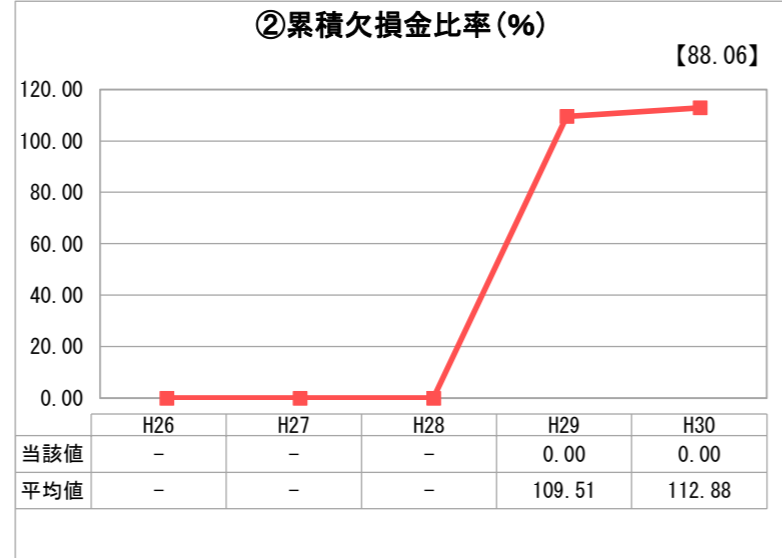
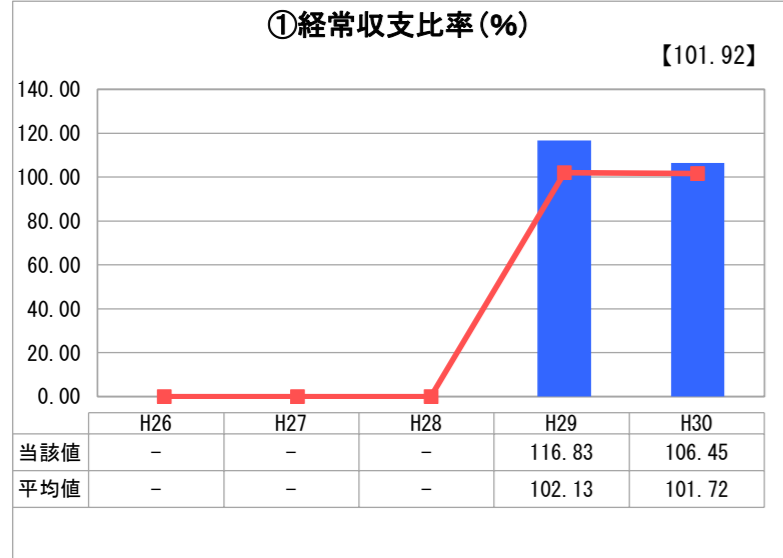
兵庫県 多可町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	59.03	18.13	91.35	3,726

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,885	185.19	112.78
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,765	2.73	1,379.12

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

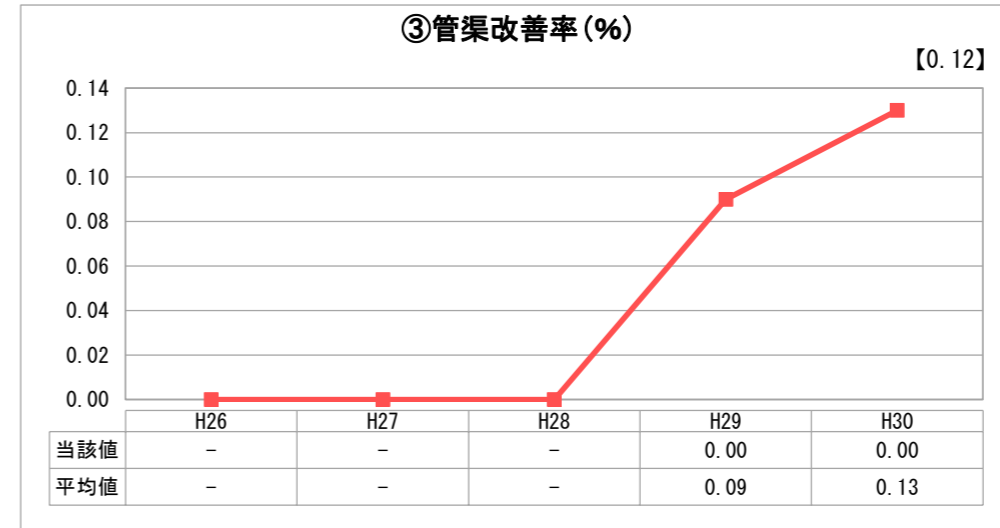
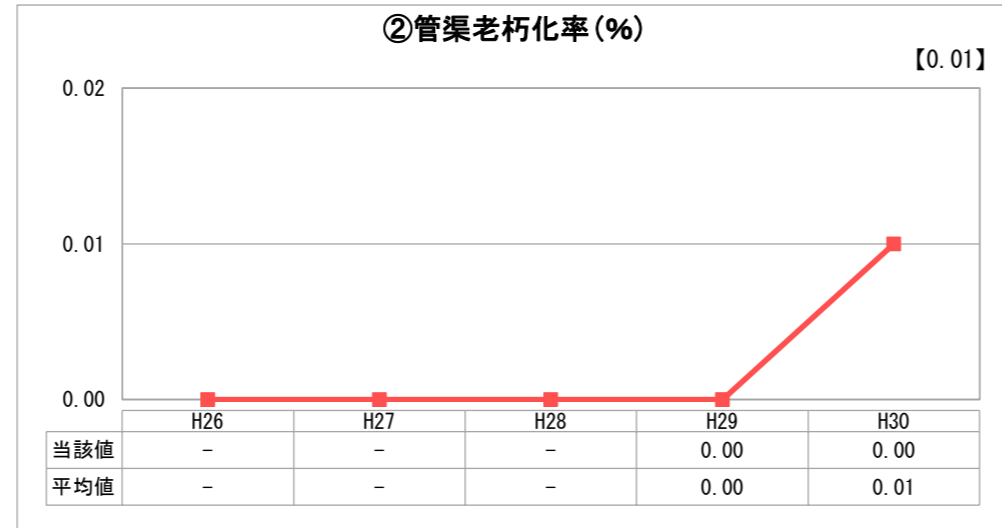
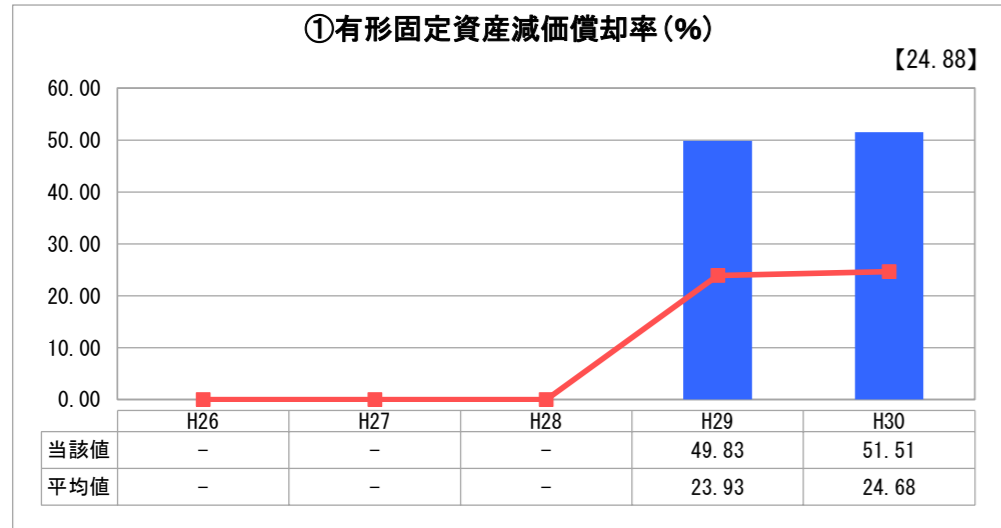
1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率については100%以上となっているが、一般会計からの補助金に頼るところも大きいので、補助金額の増減に影響されるところではある。
- ・流動比率の値が類似団体と比較しても低く、また企業債残高対事業規模比率については高くなっているのは、本町が中山間地域のため処理人口が小規模であるが、当初の下水道管渠建設に多額な費用がかかり、その地方債借入額が高額であることが影響していると考えられる。
- ・経費回収率が100%未満となっているのは、本指標に占める資本費分が高いためである。
- ・汚水処理原価については、使用料単価150円/m³より高くなっている。今後は処理原価を低減させるため、統廃合等による維持管理費の削減が必要である。
- ・施設利用率については、人口減と水道の使用量減少により使用水量が減少しているため、減少傾向である。本町では、処理施設の統廃合計画を進めているが、それを進めることより本指標は向上する見込である。
- ・水洗化率は99%と類似団体平均値より高い値となっている、今後も経営安定化のため水洗化の維持に努めたい。

2. 老朽化の状況について

- ・管渠は、最も古いもので建設から30年経過程度で、直ちに老朽化の問題があるわけではないが、将来の改築更新に係る財源確保に関して考えていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

令和元年6月末に杉原谷処理区の統廃合工事が完了した。今後、維持管理経費など経営面での改善が見込まれる。
貴船処理区については、他施設との統合が不可能なため、今後発生が予想される余剰系列の休止等、維持管理費の削減を行い、経営改善を進めていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。